

類似薬の使い分け

症状に合った薬の選び方とその根拠がわかる

◆ 序 藤村昭夫 ◆ 本書の構成 4

第1章 降圧薬 大蔵隆文, 檜垣實男 14

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 15

1. 高血圧患者にまず行うべきこと
2. 高血圧の治療方針
3. 降圧薬治療
4. 併用療法
5. 系統間での使い分け

◆ 各系統での類似薬の使い分け 26

- ① β 遮断薬 (含む $\alpha\beta$ 遮断薬) ...26
- ② Ca拮抗薬...27
- ③ ARB...28

第2章 抗不整脈薬 志賀 剛 30

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 31

1. 不整脈治療の基本
2. 抗不整脈薬の分類
3. 不整脈別の治療方針

◆ 各系統での類似薬の使い分け 37

- ① I群抗不整脈薬 (Naチャンネル遮断薬) ...37
- ② II群抗不整脈薬 (β 遮断薬) ...40
- ③ III群抗不整脈薬 (Kチャンネル遮断薬) ...42
- ④ IV群抗不整脈薬 (Ca拮抗薬) ...44

第3章 狭心症治療薬 竹内和彦, 渡邊裕司 48

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 49

1. 狭心症発作の制御における狭心症薬の使い分け
2. 心血管事故に対する二次予防薬
3. 急性冠症候群と安定狭心症の鑑別に基づいた治療薬の選択

◆ 各系統での類似薬の使い分け 58

- ① 硝酸薬...58
- ② β 遮断薬...60
- ③ Ca拮抗薬...62
- ④ 抗血小板薬...63
- ⑤ その他の狭心症薬...65

第4章 脂質異常症治療薬 安藤 仁 67

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 68

1. 脂質異常症患者にまず行うべきこと
2. 脂質異常症の治療方針
3. 高LDL-C血症にはスタチン
4. 高TG血症にはフィブラート
5. 高LDL-C血症, 高TG血症, 低HDL-C血症のどれを優先して治療すべきか
6. 薬物療法のフォローアップ
7. 脂質改善効果が不十分な場合

◆ 各系統での類似薬の使い分け	74
① スタチン	74
② フィブラート	77

第5章 糖尿病治療薬 ————— 宮本倫聡, 石橋 俊 78

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	79
1. 糖尿病治療の目的	
2. 糖尿病の病態評価	
3. 経口血糖降下薬の適応	
4. 系統間での使い分け	
◆ 各系統での類似薬の使い分け	90
① スルホニル尿素薬	90
② 速効型インスリン分泌促進薬	91
③ α -グルコシダーゼ阻害薬 (α -GI)	91

第6章 消化性潰瘍治療薬 ————— 鷹取 元, 金子周一 93

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	95
1. 消化性潰瘍とは?	
2. 病態生理	
3. 症状	
4. 診断	
5. 治療方針	
6. 初期治療	
7. <i>H. pylori</i> 除菌療法	
8. NSAIDs潰瘍	
9. 維持療法	
◆ 各系統での類似薬の使い分け	102
① プロトンポンプ阻害薬 (PPI)	102
② ヒスタミン ₂ 受容体拮抗薬 (H ₂ RA)	104
③ <i>H. pylori</i> 除菌薬	106
④ 防御因子増強薬	107

第7章 抗炎症薬 (NSAIDsを中心に) — 池ノ谷紘平, 簗田清次 110

◆ NSAIDsの概要	111
1. 抗炎症薬とは?	
2. NSAIDsの作用機序	
3. NSAIDsの分類と使い分け	
4. NSAIDsの副作用	
◆ NSAIDsの使い分けと処方の実際	120
1. NSAIDsの適応症	
2. 各疾患におけるNSAIDsの処方例	

第8章 気管支拡張薬 ————— 相良博典 125

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	126
1. COPD患者に気管支拡張薬を使用する前にまず行うべきこと	
◆ 各気管支拡張薬の特徴と類似薬の使い分け	127
① β_2 刺激薬	127
② 抗コリン薬	131
③ テオフィリン薬 (キサンチン誘導体)	134

第9章 鎮咳薬

藤原真治 138

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 139
 1. 鎮咳薬の種類
 2. 中枢性鎮咳薬（狭義の鎮咳薬，いわゆる“咳止め”）
 3. 末梢性鎮咳薬
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 148
 - ① 中枢性鎮咳薬…148
 - ② 気管支拡張薬…149
 - ③ ヒスタミンH₁受容体拮抗薬…151

第10章 皮膚疾患治療薬

i. 蕁麻疹治療薬

高田 実 153

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 154
 1. 蕁麻疹の定義：紅斑との違い
 2. 蕁麻疹の病型分類と臨床的特徴
 3. 病型別の蕁麻疹の治療
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 158
 - ① ヒスタミンH₁受容体拮抗薬…158
 - ② 補助的治療薬…162
 - ③ 副腎皮質ステロイドを用いる場合…163

ii. 湿疹皮膚炎治療薬

大槻マミ太郎 164

1. アトピー性皮膚炎治療薬のグローバルスタンダード：ステロイド外用薬とタクロリムス軟膏
2. ステロイド外用薬の使用法
3. タクロリムス軟膏の使用法
4. 内服療法について

第11章 抗菌薬

相野田祐介，平井由児，戸塚恭一 182

- ◆ 抗菌薬を使う前に 184
 1. 戦うには，まずは敵を知ること
 2. 大事なことはいつも一緒
 3. 自分の病院を知ろう
 4. 感受性の読み方～MICを縦読みしない
 5. 治療のメルクマールを見誤らない
 6. 治療期間を設定しよう～過剰な投与は避けましょう～
 7. 抗菌薬の系統と種類
 8. PK/PD
- ◆ 各起因菌と抗菌薬の選択 194
 1. 感染症の有無と抗菌薬の有無
 2. 菌と治療薬の選択

第12章 睡眠薬

岡山雅信 204

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 205
 1. 不眠の訴えにまず行うこと
 2. 不眠症の一般的知識
 3. 睡眠薬の系統の選択
 4. 服薬指導

◆ 各系統での類似薬の使い分け	214
① ベンゾジアゼピン受容体作動性睡眠薬	214

第13章 抗不安薬 三瀬順一 218

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	219	
1. 不安を訴える患者に行うべきこと	2. 症状の観点から	3. 作用時間の観点から
4. 有害作用の観点から	5. 費用の観点から	
◆ 各系統での類似薬の使い分け	226	
① ベンゾジアゼピン系 (BZD)	226	
② SSRI	228	
③ その他	229	

第14章 抗てんかん薬 山形崇倫, 松本 歩 231

◆ 疾患の概要と診断, 治療	232
1. 痙攣を起こした患者にまず行うこと	2. てんかんの治療
◆ 各抗てんかん薬の適応と注意点	240
① バルプロ酸 (VPA: デパケン [®] , デパケン [®] R, セレニカ [®] R など)	240
② カルバマゼピン (CBZ: テグレトール [®])	243
③ ゾニサミド (ZNS: エクセگران [®])	245
④ フェノバルビタール (PB: フェノバル [®])	246
⑤ フェニトイン (PHT: アレビアチン [®])	246
⑥ エトサクシミド (ESM: エピレオプチマル [®] , ザロンチン [®])	248
⑦ ベンゾジアゼピン系薬	248
⑧ 新たな抗てんかん薬	250

第15章 骨粗鬆症治療薬 竹内靖博 253

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	254	
1. 骨粗鬆症治療の対象と目的	2. 骨粗鬆症患者全般に必須な治療	3. 既存骨折をもつ患者に対する治療
4. 既存骨折のない患者に対する治療	5. 椎体圧迫骨折急性期で疼痛の強い患者に対する治療	6. 続発性骨粗鬆症の患者に対する治療
◆ 各系統での類似薬の使い分け	266	
① ビスホスホネート製剤	266	
② SERM (ラロキシフェン)	267	
③ 活性型ビタミンD ₃ 製剤	268	
④ ビタミンK ₂ 製剤	269	
⑤ カルシトニン製剤	270	

索引	272
----------	-----

症例 目次

第1章 降圧薬

- ① 中等リスク高血圧症例 …… 20
- ② 心肥大を認める高リスク高血圧症例… 23
- ③ 狭心症を合併した高血圧症例 …… 24
- ④ 糖尿病性腎症を合併した高血圧症例 24
- ⑤ 慢性腎臓病を合併した高血圧症例… 25
- ⑥ 高尿酸血症を合併した高血圧症例… 28

第2章 抗不整脈薬

- ① 無症候性心房細動 …… 34
- ② 器質的心疾患を伴わない
発作性心房細動 …… 39
- ③ 器質的心疾患を伴わない
心室性期外収縮 …… 42
- ④ 拡張型心筋症に伴った心室頻拍 … 44
- ⑤ 発作性上室性頻拍 …… 46

第3章 狭心症治療薬

- ① 急性心筋梗塞 …… 52
- ② 不安定狭心症 …… 54
- ③ 労作性狭心症 …… 55
- ④ 冠攣縮性狭心症 …… 57

第4章 脂質異常症治療薬

- ① 検診で指摘された脂質異常症例 … 71
- ② 薬物療法が必要な場合
(症例1の患者のその後) …… 72
- ③ フィブラートが第1選択薬と
なりうる症例 …… 73
- ④ 高LDL-C血症が著明な狭心症例 … 76
- ⑤ 経過中にスタチンの効果が
減弱した症例 …… 76

第5章 糖尿病治療薬

- ① 食事・運動療法で血糖コントロール
改善不十分な糖尿病例 …… 83
- ② 耐糖能異常を認める狭心症症例 … 84

- ③ 食事管理の乱れから急激に血糖コント
ロールが悪化した症例 …… 86
- ④ メトホルミン、ナテグリニド内服にて
血糖コントロール良好だったが、徐々
にHbA_{1c}上昇を示した症例 …… 87
- ⑤ 高血糖をたびたび指摘されていたが、
内服は必要ないと説明をうけていた
症例 …… 88
- ⑥ 糖尿病にて内服治療中であったが
心筋梗塞を発症した症例 …… 89

第6章 消化性潰瘍治療薬

- ① *H. pylori*陽性症例 …… 100
- ② 出血性潰瘍症例 …… 103
- ③ *H. pylori*一次除菌失敗例 …… 107

第7章 抗炎症薬 (NSAIDsを中心に)

- ① NSAIDsによるワーファリン®
作用増強例 …… 120
- ② 関節リウマチなどの運動器疾患 … 121
- ③ 疼痛性疾患 …… 122
- ④ 発熱性疾患① …… 122
- ⑤ 発熱性疾患② …… 123

第9章 鎮咳薬

- ① 高齢者の咳反射 …… 140
- ② 普通感冒による急性咳嗽 …… 144
- ③ アトピー咳嗽が疑われる遷延性咳嗽 145
- ④ β_2 刺激薬だけでは十分な効果が
得られない咳喘息 …… 150
- ⑤ アトピー咳嗽 …… 151

第10章 皮膚疾患治療薬

i. 蕁麻疹治療薬

- ① アナフィラキシーショックを伴う
蕁麻疹 …… 156
- ② 感染症に伴う急性蕁麻疹 …… 157

- ③ 慢性蕁麻疹 …………… 157
- ④ よく車の運転をする蕁麻疹患者への
処方 …………… 160
- ⑤ 妊娠の可能性のある慢性蕁麻疹患者 162

ii. 湿疹皮膚炎治療薬

- ① 接触皮膚炎 …………… 170
- ② 魚鱗癬を合併した
成人アトピー性皮膚炎 …………… 171
- ③ 手湿疹 …………… 172
- ④ 乳児アトピー性皮膚炎 …………… 173
- ⑤ 脂漏性皮膚炎 …………… 174
- ⑥ 自家感作性皮膚炎を合併した
貨幣状湿疹 …………… 176
- ⑦ 成人アトピー性皮膚炎 …………… 178
- ⑧ 小児アトピー性皮膚炎 …………… 179
- ⑨ 既存治療抵抗性の
重症成人アトピー性皮膚炎 …………… 180

第11章 抗菌薬

- ① 「念のため」は誰のため？ …………… 184
- ② 再び「念のため」は誰のため？ …………… 184
- ③ 緑膿菌が認められた腎盂腎炎患者 188
- ④ 起因菌が肺炎球菌と同定された
肺炎患者 …………… 193
- ⑤ EBV初感染 …………… 194
- ⑥ A群β溶血性連鎖球菌性扁桃炎 …………… 194
- ⑦ カテーテル関連血流感染症 …………… 195
- ⑧ 市中の単純性腎盂腎炎 …………… 197
- ⑨ 院内発症の複雑性尿路感染症 …………… 199
- ⑩ 胆管炎 …………… 201
- ⑪ 回復にむかっているPSSP肺炎患者 201

第12章 睡眠薬

- ① 入眠障害を訴える一過性不眠の症例 208
- ② 早朝覚醒を訴える短期不眠の症例 209

- ③ 入眠障害をきっかけに中途覚醒を
訴える長期不眠の症例 …………… 209
- ④ 複数の基礎疾患をもつ不眠の症例 215
- ⑤ 高齢者の不眠症例 …………… 216

第13章 抗不安薬

- ① 脂質異常症で通院中、さまざまな愁訴
を主治医に訴える例 …………… 219
- ② 緊張性頭痛と肩こりを伴う
全般性不安障害 …………… 220
- ③ 全般性不安障害を伴ううつ病 …………… 221
- ④ 動悸を主訴に循環器内科を
受診した例 …………… 222
- ⑤ 不眠、不安を訴える例 …………… 223

第14章 抗てんかん薬

- ① 小児欠神てんかん …………… 242
- ② 良性小児部分てんかん …………… 243
- ③ 複雑部分発作、側頭葉てんかん …………… 244
- ④ 抗てんかん薬による副作用の発疹 245
- ⑤ ミオクロニー失立てんかん …………… 250

第15章 骨粗鬆症治療薬

- ① 大腿骨頸部骨折歴のある
高齢女性患者 …………… 261
- ② 骨密度から骨粗鬆症と診断された
既存骨折のない患者 …………… 263
- ③ ステロイド性骨粗鬆症の危険性が
ある患者 …………… 264
- ④ 胃食道逆流症（GERD）を伴う胸腰椎
圧迫骨折の高齢女性患者 …………… 266
- ⑤ ビタミンK不足が疑われる骨量減少症
の女性患者 …………… 270